



くろさわ 地域医療連携だより

<http://www.bishinkai.or.jp>

2026年

3月

第228号

セル看護導入のご報告

～患者様に寄り添う看護を提供するために～

当院では、患者さんにより安心して入院生活を送っていただくことを目的に、看護提供体制の見直しをおこない、昨年度より「セル看護提供方式®（以下セル看護と略す）」を導入しました。今回はその取り組みについてご紹介させていただきます。

「セル看護」って何？

セル看護とは、看護師がグループ（セル）単位で患者様を担当し、病室の近くを拠点として看護をおこなう体制です。スタッフステーション中心の動きから、ベッドサイド中心の看護へと転換することが大きな特徴です。患者さんのそばにいる時間を増やし、状態の変化に早く気づき、よりきめ細やかなケアを提供することを目指しています。

導入の背景

看護師は「患者様に寄り添い、ケアの時間を多く持ちたい」という思いを大切に日々業務に取り組んでいます。

これまで当院では、患者様の重症度やスタッフの配置状況に応じて受け持ちを調整し、状況によっては師長が受け持ちを担うこともありました。安全な看護体制を維持する一方で、患者さんのそばで過ごす時間をさらに確保することが課題となっていました。

そこで、患者さんにより近い場所で継続的にかかわる体制を整えるため、セル看護を導入しました。

導入前後の変化

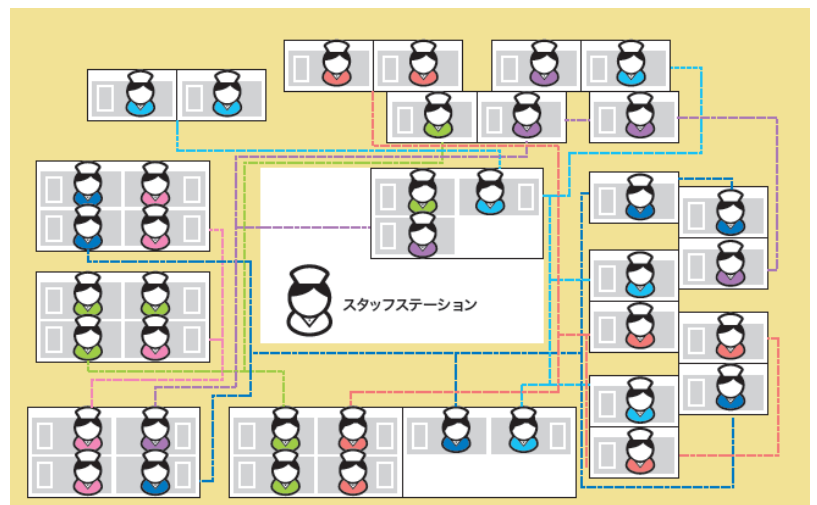
【看護師の担当患者（色別）】

師長、リーダー、時短者、遅番、
受け持ち看護師6～7名
患者さん5人～8人に対して看護
師1人の受け持ち体制※

看護師の受け持ちを患者さんごとに割り振ると、病棟中を動き回ることになり、移動に時間をとられてしまいます。

※当院の看護配置基準である「7対1」は勤務時間数に基づいて計算されるため、看護師1人が受け持つ患者様の数は、時間帯や状況によって変動していました。

セル看護導入前

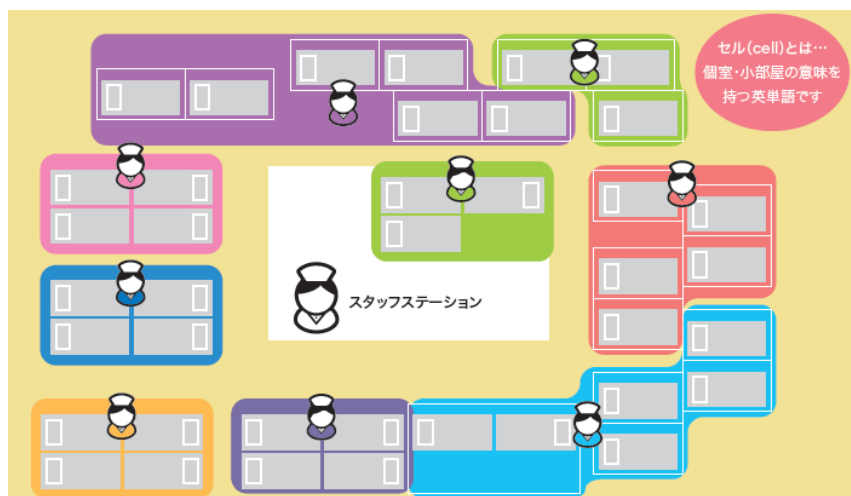


セル看護提供方式[®]

セル看護の「セル」とは動線を最適化したそれぞれの看護師の担当領域のことを示します。現在動線のムダを省くため、セルを意識した部屋毎での受け持ちを全病棟で開始しています。

セル看護導入後

部屋ごとの受け持ちで動線のムダが省かれました



スタッフの声

セル看護導入後にスタッフへアンケートを実施した結果、「ベッドサイドで看護を行う時間が増えた」と回答したスタッフが約 8 割にのびりました。患者さんのそばでケアをおこなう時間が実際に増えており、セル看護の目的である「患者さんに寄り添う看護」が実現しつつあると考えています。

期待される効果

セル看護の導入により、次のような効果が期待されています。

- ・ 患者さんのそばにいる時間の増加
- ・ 状態変化への早期対応
- ・ 転倒・転落などのリスクの早期察知
- ・ 患者さん、ご家族とのコミュニケーションの充実
- ・ 看護師間の連携強化

患者さんが安心して療養できる環境づくりにつながっています。

今後の取り組み

セル看護は導入して終わりではなく、継続的な改善が重要です。当院では定期的な振り返りをおこないながら、安全で質の高い看護の提供を目指して取り組んでいます。また、地域の医療機関の皆さまと連携し、入院から退院、在宅療養まで切れ目のない支援ができるよう体制を整えてまいります。

地域の皆さまへ

当院は今後も、患者様中心の医療を大切にしながら、安心して療養できる環境づくりを進めるとともに、セル看護の取り組みを通して、地域の皆さまに信頼される医療を提供できるように努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



